

# 施策評価シート（平成27年度実績評価）

## ◎ 施策の基本情報

総合計画 中期プラン	政策No.	2-5	政策名	福祉の充実	政策の 目指す姿	慣れ親しんだ地域で、共に支え合い、 安心していきいきと暮らしています	施策 主管課	障がい福祉課	施策主管 課長名	永田 有紀子
	施策No.	3	施策名	障がい者福祉の充実	施策の 目指す姿	障がい者が自立した生活を 送っています	関係課名	国保医療課		
	現状と課題	・障がいに関する手帳の所持者は、5,500人前後と大きな増加は見られませんが、介護給付や訓練給付のサービス利用者は増加しています。 ・障がい者は、自立した生活を送るために、自分の健康、将来の生活、十分な収入が得られるかどうかなどの不安を感じています。 ・障がい者が地域で安心して暮らすため、ノーマライゼーションに対する市民一人ひとりの意識や地域における支え合いが十分とはいえない状況です。								

## 1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取り組み実績

(1)障がい福祉サービスの充実 ○障がい福祉制度の情報提供 ・障がい福祉ガイドブック(障がい者のためのくらしのしおり)の発行 ○障がい福祉サービスの提供 ・自立支援給付費(介護給付、訓練等給付、更生医療・育成医療給付、補装具)の給付 ・障がい児通所支援給付費(児童発達支援、放課後等デイサービス等)の給付 ○障がい者の生活支援サービスの提供 ・地域生活支援事業(日常生活用具補助、自動車改造補助、移動支援等)の実施 (2)障がい者の自立した生活の支援 ○相談体制の充実 ・相談支援事業所(3か所)による総合的な相談支援の実施 ・障がい児・障がい者支援施設整備事業補助の実施 ○障がい者の就労支援 ・就労支援事業所、職親(5名)による就労支援の実施 ○医療費給付、手当支給など経済的負担の軽減 ・重度心身障がい児(者)医療費助成、障がい者手当等給付による経済的負担の軽減 (3)ノーマライゼーションの推進 ○障がい者の社会参加の促進 ・障がい者同士の活動交流(ふれあい交流会の開催、県障がい者スポーツ大会、県身体・精神障害者福祉大会への参加) ○手話、要約筆記、点訳、朗読奉仕員の育成とボランティア人口拡大 ・障がい福祉ボランティア(手話通訳者、手話奉仕員、点訳ボランティア)の養成
--

## 2 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方 (なぜ、この指標で成果を測ることにしたのか)	成果指標の測定企画 (どのように実績を把握するのか)	単位	数値 区分	H23	H24	H25 (基準年度)	H26	H27	H28
障がい者福祉サービスに満足している障がい者の割合	自立した生活を送るため、障がい者の個々に応じた必要な障がい福祉サービスを必要な時に受けられる環境になっているかを示す指標	出典:障がい福祉課アンケート 問:現在、福祉サービスを利用している方に伺います。利用についてどのように感じていますか。 (1)今の福祉サービスに大変満足している (2)今の福祉サービスにやや満足している (3)今の福祉サービスには不満である (1)(2)と答えた障がい者の割合	%	目標値				83.0	84.0	85.0
				実績値	—	81.0	55.1	77.5	85.6	
障がいへの理解が進んでいると思う市民の割合	障がい者と健常者が社会参加等を通じ、積極的に交流できるノーマライゼーションが推進され、障がい者が安心して自立した生活を送る環境になっているかを示す指標	出典:市民アンケート 問:あなたは、障がいへの理解が進み、障がい者が職場や地域において社会参加しやすくなっていると思いますか。 (1)そう思う (2)どちらかというそう思う (3)どちらかというそう思わない (4)そう思わない (5)どちらともいえない (1)(2)と答えた市民の割合	%	目標値				32.0	34.0	36.0
				実績値	—	29.8	31.9	30.9	30.5	

## 3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
C	■成果指標「障がい福祉サービスに満足している障がい者の割合」…【達成度a】 ・H25は調査対象が異なり単純に比較できないが、H27はH24、H26と比較して満足している割合が増加し、サービス供給体制が充実してきていると考える。 ■成果指標「障がいへの理解が進んでいると思う市民の割合」…【達成度c】 ・H24からH27にかけてほぼ横ばいで推移しているものの、30代で6割、20代、40～60代で4割以上が理解が進んでいないと回答しており、成人に対する啓発が必要と考える。

#### 4 施策を構成する事務事業一覧

番号	事務事業名	担当課	施策への貢献度	
	事業内容(実績)		直結度	成果
1-1	障がい者等相談支援事業	障がい福祉課	A	B
	障がい者の自立した日常生活及び社会生活を支援するための相談支援を実施 (相談支援事業所相談件数:H26 11,999件 → H27 13,502件)			
1-2	障がい者等相談支援事業	障がい福祉課	A	-
	障がい者の自立した日常生活及び社会生活を支援するため、支援施設整備に対する補助を実施 (障がい児・障がい者支援施設整備事業補助件数:H27 1件(就労継続支援事業所の改修))			
2	障がい者地域生活支援事業	障がい福祉課	A	B
	障がい者の能力と適正に応じた自立と社会参加の促進を図るための福祉サービス費の補助、手当等の給付を実施 (手話奉仕員養成講習修了者:H26 10人 → H27 13人)			
3	障がい者自立支援事業	障がい福祉課	A	-
	障害者総合支援法に基づく障がい福祉サービスの提供と医療費の給付を実施 (自立支援給付延利用者:H26 14,532人 → H27 15,150人)			
4	重度心身障がい者医療費助成事業	国保医療課	B	-
	重度心身障がい者に対する医療費助成を実施 (重度心身障がい者医療費受給者証交付人数:H26 2,315人 → H27 2,291人)			
5-1	障がい児支援事業	障がい福祉課	B	-
	イーハートブ養育センター利用者の給食費負担を軽減するための補助を実施 (イーハートブ養育センター給食提供人数:H26 62人 → H27 55人)			
5-2	障がい児支援事業	障がい福祉課	B	-
	障がい児が利用する施設の運営団体に対する経済的支援を実施 (国立病院機構花巻病院わかば病棟入所者数:H26 59人 → H27 56人)			
6	イーハートブ養育センター整備事業	障がい福祉課	A	B
	イーハートブ養育センターの施設整備にかかる基本設計及び諸調査を実施 (H27 基本設計、測量調査、地質調査、造成設計開発行為申請、分筆登記業務)			
7	障がい児通所等給付事業	障がい福祉課	B	B
	障がい児通所支援サービスの利用等に要する費用の給付を実施 (イーハートブ養育センター利用児童数3月末:H26 30人 → H27 32人)			

#### 5 施策を構成する事務事業の検証

<p>(①市民ニーズや市の関与の必要性が低下した事業、②投入コストのわりに成果が低い事業、③施策への貢献度の低い事業はないか)</p> <p>・上記事務事業は、施策の目指す姿を実現するための取り組みとして妥当な事務事業の構成と考える。</p> <p>(施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか)</p> <p>・相談やサービス利用が増加傾向にあることから適切な支援に努め、障がい者が自立した生活を続けていくことができる体制づくりを推進していく必要がある。</p> <p>(新たに取り組むべき事業はないか)</p> <p>・障がい者が住み慣れた地域で安心して自立した生活ができるよう、相談体制の中核的な役割を担う機関として、基幹相談支援センターの設置を図っていく必要がある。</p>
--

#### 6 施策の総合的な評価

<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者が地域で安心して生活を送るための、障がいへの理解促進が必要である。</li> <li>障がい福祉サービス利用者の意識の把握を行うとともに、障がい者の視点に立ったサービス提供体制の検討が必要である。</li> <li>障がい者への相談支援の充実を図るため、相談業務を担う関係者相互の連携を図る必要がある。</li> </ul> <p>(今後の方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>障がいを理由とする差別解消の推進や合理的配慮の提供などについて、広報はなまきなどにより周知を行う。</li> <li>アンケート調査により障がい者自身のニーズの把握に努め、サービス提供体制の構築に反映させるとともに、障がい児・障がい者支援施設の整備に対する補助を実施する。</li> <li>障がい者の相談や諸問題に一体的に取り組むために、地域自立支援協議会において地域の関係機関との更なる連携を図っていく。</li> <li>平成28年度から障がい福祉課に基幹相談支援センター機能を置き、業務を開始する。</li> </ul>
---